

議事録			
会議名	第18回 国立市環境ネットワーク会議		
日時	令和5年12月18日(月) 15:00~17:00	場所	市役所地下食堂
<p>【出席者】 敬称略</p> <p>会員団体：あかるい社会をつくる国立市民の会 丸本 エネシフくにたち 前田 くにたち・まちづくり∞自転車倶楽部 末吉 株式会社ヤクルト 本社中央研究所 川野 ゼロエミッションを実現する会国立 山上、尾身 一般社団法人 Co 平川</p> <p>事務局：鈴木(環境政策課長)、松原(環境政策係長)、朽網(環境政策係主事)</p> <p>【議事内容】</p> <p>1. 各団体の活動報告</p> <p>各団体より、以下のとおり活動の紹介・報告が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかるい社会をつくる国立市民の会 城山公園の池の管理、落ち葉の整備、ホタルの生育などの活動を行っている。 ・一般社団法人 Co 一橋大学発の社団法人で、一橋大学の学生で組織。カーボンクレジットの創出支援などを行っている。他の自治体と話をしながら、農業分野でのクレジット創出を支援している。 ・ゼロエミッションを実現する会国立 気候変動が止められなくなる前に対策をと考えて活動している。市民の声を聞くことなど、計画が具体的なものになれば良いと考えて活動している。 ・株式会社ヤクルト本社中央研究所 国立市の事業者として、皆さんを手伝えることがあればとの思いから、環境ネットに参加している。 ・エネシフくにたち 以前はワークショップを開くなどの活動をしていた。現在は、メンバーでそれぞれの活動をしており、自身は循環の良い生態になるように樹木の事について活動している。樹木は街路樹、緑地帯など各場所で市の担当が異なり、樹木を守ろうという連携が取りにくい。2小の樹木に関するプロジェクトを行っているが、環境基本計画においても、みどりという観点が重要だと思う。 ・くにたち・まちづくり∞自転車倶楽部 まちづくりに自転車を活かそう、移動手段に自転車を活用しようという考えで、実際の道路を使って、小学生に自転車のルールを覚えてもらうための活動をしている。コロナと猛暑により活動方法を見直し、現在は環境フェスタでの出展などを行っている。環境フェスタでは、パネルを使ったクイズを通して、親子で交通ルールを学んでもらっている。 <p>2. 環境フェスタの振り返りについて</p> <p>会長より環境フェスタでの出展状況の報告が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人えねこやに依頼し、太陽光発電による再生可能エネルギー生活を体験できる「移動式えねこや」を展示した。 ・小学校の土曜授業の影響か環境フェスタ全体での小学生の来場者数が少なく、子供に体験してもらうことがあまりできなかった。しかし、来場された方は非常に興味を持たれていた印象。 ・今後はえねこやによる出前授業を行いたい。また、国立市内にえねこやがあればそういった活動もやりやすくなると思うので、今後はそういったことも考えていきたい。 <p>3. 国立市地球温暖化対策実行計画(素案)について</p> <p>事務局より計画についての説明が行われ、それに対して各団体より以下の意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(平川) 計画をどのように実行していくのか、そのためのインセンティブの作り方が大切だと思う。また、市民の意識作りも重要だと思うので、環境ネットで話し合っただけで実行出来たら良いと思う。 ・(末吉) 個人から排出される温室効果ガスの省エネに加えて、太陽光などの再エネの導入がどうしたら進むかが重要だと思う。 			

- ・(丸本) 国立市内では、どの程度太陽光発電の導入が進んでいるか？
⇒(事務局) 現時点で市内戸建てには、FIT 制度で約 1000 個設置されている。今後に向けては、何をしたら良いかが市民が分かるように計画の概要版を作成する予定。
- ・(末吉) 1000 戸というのは、割合にすると何%か？また、マンションへの設置はあまり進んでいないと聞いているが、どうなっているか。
⇒(事務局) 戸建ての数が 10000 戸程度なので、10%程度と考えられる。マンションについては、あまり設置は進んでいない。
- ・(平川) オフサイト P P A の数はこれに含まれているか。
⇒含まれていない。自家消費分については、数字を拾えていない。
- ・(末吉) スマートシティのような形で地域で電力を自給し融通するのであれば、エリアで分けながら区域ごとの特徴を活かした仕組みを作ることが必要だと思う。各区域の拠点になるのが学校であり、2 小の建て替えの際になぜ太陽光パネルを載せないのかとも思っている。
- ・(前田) 2 小の樹木植え替えについて、環境政策課は内部に入っていない。子供たちの環境を守ることが人権問題であることを考えれば、環境政策課も連携を深めていくべきだと思う。
⇒(事務局) 2 小の建て替えの際に、太陽光パネルの設置では関われなかったもので、計画の中でも、太陽光発電設備の設置について項目を入れた。今後は、これを基に環境政策課も入っていきたいと思っている。
- ・(前田) 樹木についてはどうか。
⇒(事務局) 樹木については各課で担当しており、課ごとに考えがあるかと思うが、そこについては議論が尽くされていないかと思う。温暖化の観点については、街路樹や樹木の吸収量は一定程度であるため、クールスポットなどの適応策の観点から保全していくべきと考える。一方では、伐採する以上に新たに植えるという計画かと思うが、必ずしも伐採が良くないのかという議論もしていかなければいけないと思う。
- ・(前田) 樹木の意味はCO₂だけの問題だけではなく、温度を下げること、生物多様性といった意味もある。子供が自然を体験できる教育を出前授業などを通して行うべき。また、森林環境譲与税を樹木の保全に活用できないか検討してもらいたいと思う。
- ・(山上) 人権を守るための樹木保全を行ってほしい。気候変動対策は、被害を受けている人を守るものであるということ、計画の冒頭に入れてほしい。気候変動対策は我慢するものではなくて生活を楽しむことだということも入れてほしい。再エネに加えて省エネも大切であるため、それを強調してほしい。温暖化については、30 代以下の若い層が影響を長く受けるため、若年層の市民ワークショップを開いてほしい。
- ・(尾身) 子供のことを考えた計画としてほしい。清潔で健康的かつ持続可能な環境へアクセスする権利も冒頭を書いてほしい。太陽光発電は P P A を使用すれば費用ゼロで設置することも書いてほしい。また、再エネ電力への切替も簡単にできることをどうやって P R すれば伝わるだろうかと考えている。
- ・(山上) パワーシフトについても大切だと思うが、市民の多くは知っているだろうか。
- ・(川野) 商品の P R も同じだが、アピールというのは難しい。何万人に P R しても、それが効果があるのは一部のみ。影響力のある人が言及することで普及に繋がる。また、地味に P R を継続することが大切。
- ・(尾身) 省エネなどについて相談ができる、相談員が市にいると良いと思う。
- ・(前田) 子供の声を聞いてほしいと思う。

4. 環境基本計画進捗状況報告について

事務局より環境基本計画進捗状況について、報告を行った。

- ・各分野の指標の推移、特徴的な取り組みを紹介。
- ・自然環境と歴史分野については、環境フェスタや多摩川探検隊の開催、雨タンクの配布を行った。
- ・都市環境分野については、市民と共同しての気温調査を昨年度より行っており、今年度も引き続き実行することで、参加者に緑化の大切さや地球温暖化について学ぶ機会を提供した。
- ・生活環境分野については、リモートワークによる影響か、公害に関する相談件数が増加した。
- ・資源循環分野については、市民一人当たりのごみの量は減少傾向にある。生ごみだけを収集し

て、たい肥にして資源化する取り組みを行った。

・地球環境分野については、コロナ渦からの正常化により、環境学習等のイベントが再開しました。

5. その他

- ・香害について、欠席の「Living with Caneries」より議題の提案があったことから、代行して事務局より資料の紹介を行った。
- ・香料付きの柔軟剤、石鹼・洗剤等が最近では出回っているが、その香りは家庭内だけではなく、学校、職場、店舗、交通機関など、あらゆる場所で漂っている。そうした香りを心地よいと感じる人ばかりではなく、不快に感じる人もいる。更に中には、それらの香りで頭痛やめまい、吐き気、せき込みなどの症状が出る人もいる。これらの症状は香料による化学物質過敏症かもしれない。現状の対策は、原因となる物質を回避し、良好な環境で生活続けるしかない。まずは使用している香料製品が、周囲の人に健康被害を起こす可能性があることを認知することが必要。

以上